

松田町立松田中学校

研究主題：学習する生徒が主役となる授業づくり ～学ぶ力を育てる学校へ～

1 実践の目的

(1) 研究主題について

対話的な学びを通じて「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、学習者の視点に立って「学習する生徒が主役となる授業づくり」を進めるとともに、生徒一人ひとりの「学び」を確かなものとするための視点として「指導と評価の一体化」を一層重視することによって「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、「学ぶよろこび」を実感しながら資質・能力を身につけることができる学びづくりを進める。

(2) 主題設定の背景について

近年、PISA 調査などの国際学力調査で見えてきたことは、自ら考えたり、考えたことを表現したりする力に課題があるということである。教師主導の一斉学習や講義形式の授業と、記憶の再現や再生を測定するだけのペーパーテストから脱却し、「思考力、判断力、表現力等」を育成する授業へと変える必要がある。」そのために、学習者の視点に立った学習プロセスの再設計が大切である。学習者にとって学ぶ意味や意義を明確にし、「学びに向かう力」のベースとなる「もっと学びたい」という気持ちが高まるような授業改善を進めていきたい。

2 実践の内容

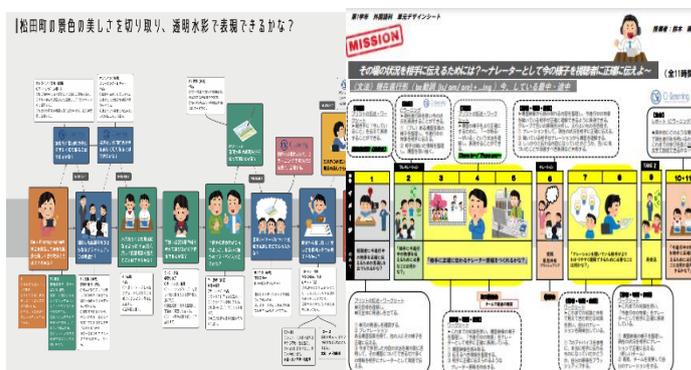
(1) 校内研究構造改革

本校は、令和元年度より授業改善アドバイザーとして常陽学園 教授 三浦修一 氏を招き、継続的に授業改善を進めてきた。昨

年度には授業改善ための土台が整い、今年度から「学びの質的向上」を図るフェーズへと移行した。

① 単元デザインシートと授業づくりカンファレンス

授業者は単元デザインシートを作成し、単元計画の見直しを図った。単元をデザインする際は、学習者に振り返りで何を語らせたのか意識するようにした。授業検討会では、学習者の視点に立ち、「思考力、判断力、表現力等」の育成が実現できるように学習プロセスを検討した。



授業づくりカンファレンスでは多くの学習者の声に耳を傾けられるように、人数や時間の最適化を図った。授業者と学習者で共に授業をつくっていくために普段の授業の困り感や単元全体のデザインなどについて、協議を重ね、授業の改善を図った。



②学ぶ力を身につけるためのスキル

学びの質を高めるために下図に示した「受け止め」を重点目標とした。「受け止め」を大切にすることで学びの質的向上を図ることができる。授業者が学習者に単元のゴールを示し、「何を学び、なぜ学ぶのか」を理解させ、学びに向かう力の育成に力を入れた。

学ぶ力を身につけるためのスキル				
	発信する		処理する	受け止める
言語	受け手に伝わりやすい表現を工夫して発信する。	伝えたい内容を表現の仕方とあわせて組み立てる。	受け止めた内容の意味を、自分の表現に書き直す。	発言や記号などの意味を確かめながら受け止める。
情報	身の回りや社会をよりよくすることを旨として発信する。	発信したい内容を、表現の仕方とあわせて組み立てる。	集めた情報の内容を、自分の表現に書き直す。	どのような情報が必要かを考えて収集する。
解決	課題をよりよく解決できる内容で提案する。	よりよい内容が提案できるように、表現の仕方とあわせて組み立てる。	課題を解決するためのいくつかの提案を比べて検討する。	問われている課題をどのように受け止めたのが表現する。

「言語」とは、言葉だけでなく、地図の記号、数字、図形、数式で用いられる記号、化学記号、音符、色、トーン、ピクトグラム、身体表現、観音など、非言語コミュニケーションの要素を含むあらゆるコミュニケーションツールをさしている。

3 実践の成果

今年度は授業改善のための土台づくりの一つにある単元デザインシートを授業者が取り組み、検討会の中で意見交換ができた。

単元が始まる際には、単元デザインシートを学習者に配付し、単元の見通しを共有することができた。また、授業者が学習者の学びのプロセスに合わせて、カリキュラムを変更する工夫がみられた。

授業づくりカンファレンスにおいても、多くの学習者の声を授業者が受け止め、授業をより良くしようとする取り組みも見られた。

学ぶ力を身につけるためのスキルの「受け止め」の実践では、学習者が単元で「何を学び、なぜ学ぶのか」を理解するために、単元のゴールをはじめと終わりに示し、その表現の変容を見取る工夫が見られた。

4 今後の展開

校内で策定した「中長期学びづくり計画」に沿って、本校では授業改善のために学びの質的向上を図っていく。「指導と評価の一体化」の観点から、学習プロセスにあった評価を行うことが求められる。学習者が「知識・技能」の必要性を感じる場面で習得できるようにし、知識・技能を教え込む授業にならないように工夫していきたい。

・「問い」と「答え」を繋ぐ

学習活動を通じて、「思考力、判断力、表現力等」の育成が図れるように、学習者の学習プロセスを意識した単元デザインを継続的に進める。

・「問い」を追求する学習活動の質を高める

「知識・技能」の習得の仕方や何を問われているのかの「受け止め」などについて改善を進めていきたい。

さらに、教科だけではなく、総合・学活などともに連携しながらカリキュラムの編成を行い、学習者の非認知的スキルや汎用的スキルを育成をしていきたい。